

令和6年度オホーツク地域づくり連携会議（北網ブロック）議事概要

1 日 時：令和6年8月5日（火） 15：00～17：00

2 場 所：オホーツク合同庁舎 3階 講堂

3 出席者：別添名簿のとおり

4 議事概要

- （1） 次期「オホーツク連携地域政策展開方針」の振興局案について
資料2により網オホーツク総合振興局澤見地域創生部長が説明
- （2） 新たな「地域づくり推進ビジョン」の素案について
資料3により網走開発建設部根田次長（港湾農水担当）が説明
- （3） 上記（1）（2）に係る意見交換

主な意見

【北見市 辻市長】

- ・ 生産年齢人口の減少を受け、あらゆる分野において人手の確保が大きなテーマになっている。
- ・ そのことは公共分野でも同様であり、国や道、とりわけ市町村が直面している人手不足は、今後非常に深刻な問題になってくると感じている。
- ・ この問題への対応は極めて難しいわけだが、持続可能なオホーツク地域であり続けるためには、オホーツク連携地域政策展開方針にもあるように、スマート農業などのDXの取組を一段と推進することや、行政などにおいて広域での取組をさらに推進することなどに一段と注力していくという視点が重要だと考えている。

【網走市 水谷市長】

- ・ 食と観光とゼロカーボン、この柱をもって方向感をもって統一しようということは全く賛成であり、この方向で私たちも地域で取り組んでいきたいと思う。
- ・ 食については、まさに柱の大きな一つだが、今現場で起こっているのは、作るものがなくなっているということ。
- ・ 離農などにより1農家あたりの耕作面積が増えていく中で、市内の農地を守るためには、畑作3品を3品で回すのではなく、4品、5品で回すための品を今後考えていかなければならない。
- ・ こうした新たな作付けに対してどう支援していくのかが、この地域の農業を支える大きな課題と考えている。
- ・ 水産業においては、ホタテの卵が採れていない。卵が採れないと稚貝ができず、稚貝が採れないと4年後の成貝が採れないので、栽培漁業の前提が崩れかねない状況にある。
- ・ 今後の対策において、道または大きな意味での国の支援をいただきながら、一次産業の発展をしていかなければならないと思っている。

【美幌町 平野町長】

- ・ 広域観光の取組として、北見市と網走市、大空町、小清水町、美幌町の二市三町によるサイクルアドベンチャーオホーツク推進協議会を組織し、サイクルツーリズムやオホーツクの資源を最大限に活用した観光コンテンツの開発、イベントの企画を進めているところ。
- ・ 市、町の枠を超えて地域の魅力や観光情報を発信しており、今後も継続して取り組んで推進していく必要があると考えている。
- ・ 美幌町独自の取組として、美幌みどりの村エリアにおいて国の交付金であるデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、総事業費 10 億円で進めている。
- ・ 美幌町には年間 80 万人以上の観光客の方々が訪れてはいるが、通過型の観光ということが大きな課題となっていた。前段でお話ししたとおり、他の自治体と連携した広域観光の取組をしっかりと進めながら、その拠点となる美幌みどり村を再整備していきたいと考えている。
- ・ 今回、示していただいた内容をしっかりと受け止めた中で、従来の交流人口、それから新たな意味での関係人口の増加をしっかりと図り、今後オホーツク地域の新たな滞在型観光の一つの柱になればという思いで進めている。

【津別町 佐藤町長】

- ・ 一点目に観光について、津別町だけではなく、清里町、小清水町、大空町、美幌町はそれぞれ阿寒摩周国立公園と隣接している。そういったことから、釧根も含めた、いわゆる道東という概念も必要なのではと思う。
- ・ 津別も、屈斜路カルデラ外輪山トレイルルートがこの秋に開通する予定で、まだ時間はかかるが、釧路から羅臼を結び、350km に及ぶ北海道東トレイルルートの中間ほどに位置する町村なので、ここも釧根との連携が必要になると思っている。
- ・ また一方で、徐々に観光客が増えるにつれ、同時にゴミも増えてきているということを現場から聞いている。そういった環境問題に関しても広域で勉強会をするなど、対策を共通認識できるような仕掛け・仕組みが必要だと思っている。
- ・ 二点目に、エゾシカによる被害がどんどん増えている。国有林や道有林における鳥獣被害対策については持ち主である国や道による省庁を越えた取組が必要。お金を渡して市町村で全て処理するのではなく、本格的な有害鳥獣対策を道にもお願いしたい。

【斜里町 山内町長】

- ・ まず、「オホーツク統一イメージの形成・発信」について、それぞれの市町村が自分たちの魅力を発信するということも必要だが、オホーツクとして共通する特徴的な部分（一次産業を活かした「食」や「自然との共生」など）を、コンセプトを合わせて発信していくことが重要。
- ・ 物流の関係については、オホーツク地域は大消費地から遠く離れていることから、2024 年のトラック問題などもあり難儀している。これまでも多くの支援をいただきながらインフラ整備を進めてきたが、陸路・鉄路・海路といった部分を総合的に勘案し議論を進めながら整備を進めていくことが重要。

- ・地域医療について、観光客や外国人労働力などを受け入れていく中で、医療提供体制をしっかりと充実させることが重要。医療従事者の確保も厳しい状況にあるので、遠隔医療等を含めて、ネットワークを確立する必要がある。
- ・言葉が通じず、車も持たない外国人の方々に対する医療提供体制を今後考えていく必要がある。このように、これまでとは少し違う概念での医療提供体制の整備が必要になってくるので、今後皆様と検討しながら、自立した地域づくりを考えていかなければならない。

【清里町 古谷町長】

- ・原案の中において、連携地域政策の展開方法や5つのプロジェクト、さらには地域づくり連携ビジョンの地域の目指す姿や9つの主な施策の方向性が示されているが、それぞれの主体の責任によって着実に推進されることが大事ではないかと考えている。
- ・北海道総合開発計画においては、生産空間や共創というキーワードの中で、食料の安全保障を支える農林水産業、食料関連産業の持続的な発展を掲げているが、まさしくここがオホーツクの今後の地域の連携ビジョンの有り方の核になってくるのではないかと捉えている。
- ・食糧基地である北海道の中核的な役割はオホーツク農業が担っているという観点で、農業者が生産意欲を停滞させることなく取り組んでいくために、農業の整備事業の更なる計画的な推進が必要。
- ・生産、乾燥、調製、保管、輸送等と併せて一時集荷と貯蔵、集積といったものを考えたときに、産業間の連携という観点での環境条件整備について、もう一歩踏み込んだ形で戦略的に進めていくことが今後必要になってくるのではないかと考えている。

【小清水町 久保町長】

- ・政策展開方針に記載された主な施策を確実に推進していくことが大変重要であると思っており、特に当管内においては、担い手の確保を含めた農林水産業の強化がなければまず残れないのではないかと認識をしている。
- ・小清水町で特に今問題意識を持っているのは交通ネットワークの関係。JR 石北本線・釧網線の維持は当然であるが、バスやタクシーの維持も重要。本町には高校がなく、子ども達は網走市、清里町に通っているの、その交通がなければ町として生き残れないという危機感を持っている。
- ・また、オホーツク地域への人口定着の推進については、民間企業と連携した関係人口の創出が重要と考えており、防災拠点型複合庁舎についても民間企業のノウハウを頂きながら進めているところ。
- ・小清水町は農業が基幹産業であるため、新たな産業の創出というのは難しいが、民間企業の力を頂き、農業の関連産業企業の誘致など、やれることを考えながら進めていきたい。

【訓子府町 高橋教育長】

- ・農林水産業の強化について。スマート農業や GAP の導入・活用については、一層推進すべきと考えているが、特にリモートセンシング、ロボットトラクター、ドローンの分野が重要。また、オホーツク農業を牽引するには、道総研や農業関係機関との連携により、新品種の育成や技術開発など基礎的研究の充実は欠かせないものと考えている。
- ・獣害・鳥獣対策について、人手不足やハンターの高齢化が進む中、エゾシカ・ヒグマ等の駆除体制

の再構築やそれに欠かせない交付金制度の充実が必要と考えている。

- ・人口定着の推進について、人手不足のため、一次産業や福祉分野における外国人材の活用を見据えた多文化共生は自然な流れとなると思う。本町にも、小さい町ながら、今は60名ほどが外国人労働者として居住しているが、受入環境の整備や定着に向けた日本語教育の体制づくりの推進などが必要と感じている。
- ・交通ネットワークの形成について、鉄路の維持は地域住民の移動手段として、鉄道貨物輸送はオホーツク圏で生産される農産物を安定的に輸送する物流手段として不可欠だと考えている。
- ・オホーツクの物流を考える上では、十勝オホーツク道の未整備区間、足寄ー小利別間の整備促進を働きかけるべきであり、農産物の物流多様なネットワークを築くためには十勝オホーツク道を含めて、十勝港を視野に入れて進めるべきと考えている。

【置戸町 深川町長】

- ・農林水産業の強化について、本町においても担い手がどんどん少なくなって、本町では日本最大の500町を超える法人が7年前にできたが、その法人でさえ、構成農家の高齢化により切羽詰まった状況となっている。外国人労働についても視野に入れていかなければならないと思う。
- ・置戸町は林業のまち。主伐期を迎えた道産材がこれから出てくる中で、これを活用するには、公共施設への木材の利活用の後押しを是非とも続けていただきたい。また、造材だけではなくて造林の機械化、ICT化を進めていただきたい。
- ・福祉分野などにおいては、積極的に外国人材を入れていかなければサービスの維持が難しい状況。一方、外国人材の流動化に対する懸念があるので、外国人に地域に定着してもらえるよう、多文化共生を推進していただきたい。
- ・交通ネットワークの形成について、この広い地域では交通網の整備が欠かせないため、是非とも道路整備にも力を入れていただきたい。その際、道路の利便性を向上させるためには、降り口・乗り口をつくっていただかなければなかなか利活用は進まないのので、インター等の整備についてもご配慮いただきたい。

【大空町 松川町長】

- ・「オホーツク連携地域政策展開方針」、「地域づくり推進ビジョン」については、概要のとおりで良いかと思う。町としても、一緒になって取り組んでいきたいと思っている。
- ・農業については、近年の温暖化の影響で干ばつや局地的な大雨ということもあるため、農地の基盤整備についてご支援いただきたい。
- ・先ほどからエゾシカの食害という話があるが、せっかく農業者が大切に育てた農産物が食害によって被害を受けるということがないように引き続き取組をお願いしたい。
- ・暮らしに関しては、今網走市を中心に斜里・清里・小清水・美幌・大空の1市5町の広域でごみの焼却処理施設、中間処理施設の整備を進めている。国や道に色々ご支援いただければありがたい。

【北見地方木材協会 江本会長】

- ・業界を取り巻く問題としては大きく分けて人手不足と物価高。住宅に関しては、物価高等の影響

を受け苦戦している。札幌の方はまだ良いが、その他の市町村についてはほとんど家が建たない状況になってきており、非常にダウンしている。

- ・人手不足に関しては、皆様もおっしゃられていたとおり、ハローワーク等を通じて人も来ない状況であり、本業界に関わらず全体の問題だと認識している。
- ・地域における医療、教育、交通インフラ、住環境、賃金といった基本的な部分を改善しなければ、これからも人が来てくれないのではないかと思う。

【オホーツク観光連盟 小澤会長】

- ・皆様ご存じのとおりオホーツク地域は 18 市町村にまたがる広大な面積。それぞれの市町村の特色も異なっており、かねてからオホーツクを一面的に PR していくのが非常に難しいと痛感している。
- ・まずは、各市町村単体で観光客を呼び込む商品をブラッシュアップしていく。そして、それが確立されたら隣のまちとコラボして、少しずつ広げていくというやり方が好ましい。
- ・また、各地の宿泊施設の不足が課題として挙げられる。特に観光がピークの時にはホテル不足で受け入れられないという現実があるので、近隣市町村との連携を高めて、観光と宿泊の役割分担をするなど、これまで以上に関係性、関連性を高めていく取組が必要だと思う。

【オホーツク管内森林組合振興会 小林会長】

- ・最近、森林認証材に対する認識が大手企業でも深まってきており、森林認証林から出た木材をカラマツ集成材の原板にしたいということで、管内の工場で製材を行っている。
- ・各工場でも、森林認証林から出た丸太を多く出していこうという方向にシフトしている。
- ・現在、北海道でも 1 ヘクタールあたり 1,600 本～1,800 本という本数を植えるよう推奨しているが、昔にかえて 2,400 本くらい植えないと太い丸太が出ないとも言われている。
- ・森林を多様性のもった植え方をすることも一つの方法ではないか。

【オホーツク管内商工会連合会 久島会長】

- ・まずはオホーツクを俯瞰してみると、地域づくり推進ビジョンというのは本当に必要で、是非進めていただきたいと思う。
- ・商工事業者の課題としてはただ一つ、人口減、そして後継者不足による店舗の減少がどこの町でも課題となっているのではないか。
- ・しかしながら、商店街、個店に定年はないが、デジタル化、DX 化が進んでいくと、逆に廃業の後押しになっている状況の方もいるということを是非覚えておいていただきたい。
- ・今、商店街や店は、町のライフラインの一翼を担っているということで、個人の利益のためではなく、町のために頑張っている店が多いということも理解していただきたいと思っている。

○その他

その他情報提供事項については、会議時間の都合上資料のみ配布

○閉会